

NEWS

産業廃棄物処理業における リスクアセスメント研修会開催

- ・日 時：1月29日（水）午前9時30分
- ・場 所：名古屋国際会議場
141・142会議室（名古屋市熱田区）
- ・参加者：54社69名

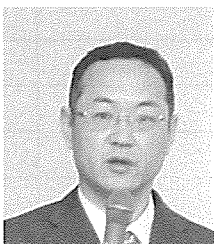
リスクアセスメントの目的と意義、原則的な実施方法、仕組みづくりについて演習を交えた研修会が、事業所における中心的な役割を果たす実務担当者を対象に開催されました。

開会の挨拶で安全衛生委員長 伊藤泰雄氏は「我々の業界は事故が多いと言われておりますが、本日参加の皆様方が起点となり、少しでも事故が減少するよう期待しております。また、連日報道されております新型コロナウイルスについては、感染防止対策の周知徹底をお願いいたします。」と述べました。



開会挨拶をする
伊藤委員長

講演会は中央労働災害防止協会中部安全衛生サービスセンター安全管理士・衛生管理士 小川達也氏を講師としてお迎えしました。



講師の小川安全管理士・衛生管理士

講義1では、「産業廃棄物処理業におけるリスクアセスメントの必要性」について、危険性又は有害性から労働災害の発生状況、労働災害の発生と企業の責任、労働安全衛生のリスクアセスメン

トをはじめよう、これまでの労働安全衛生活動との関係、などの講義がありました。

講義2では、「リスクアセスメントの基本と実施に向けて」について、リスクアセスメントの法的な位置づけ、リスクとは、リスクアセスメントの効果、リスクアセスメントの導入・実施手順、の説明がありました。中でもリスクアセスメントの実施において、経営者トップの導入宣言は社内全体への影響が大きいとのことでした。

また、「リスクアセスメントとKY活動の違い」では、KY活動とは“現場で作業を始める前に、作業者がどこに危険が潜んでいるかを作業者がお互いに出し合い、作業の要所要所で指差呼称を行い、安全確認して行動する活動”です。そのため個人の注意が頼りであり、その現場限りの対応となります。

リスクアセスメントは、職場のリスクを定量的に見積もり、対策の優先度を決め、リスク低減措置として機械設備等の改善を管理者や経営層を含めて措置を実施することで労働災害が生じないようにする取り組みとなるため、本質的な対策で組織的な取り組みとなります。

演習ではグループごとに分かれ配布された用紙に、危険性又は有害性の特定、リスクの見積り、リスクの低減対策の検討、コメントの記入を行い各事例について検討されました。

その後、専務理事 堀部隆司氏が閉会の挨拶を述べ研修会は終了しました。

